

平成29年度 自己評価報告書(東京医療専門学校)

H30-6-30

1. 教育理念・目標

評価項目	現状	根拠・実施内容 (組織体制、規定、実施状況、資料)	適切-4、ほぼ適切-3 やや不適切-2、不適切-1
1-1 理念、目的、育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	<p>〈理念〉 創立者である坂本貢の「建学の精神」を受け、以下の理念が定められている 「国民の保健衛生と伝統医学の発展に寄与し、広く社会に貢献する有為な人材を育成することである」</p> <p>〈教育目的〉 本校は、はり師、きゅう師、あん摩マッサージ指圧師、柔道整復師及び鍼灸マッサージの教員を養成するにあたり、それぞれに必要な高度の専門知識及び技術を授け、国民の保健衛生の増進に寄与するとともに、広く社会に貢献する有為な人材を育成することを目的とする</p> <p>〈育成人材像〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ●あはき科・柔道整復科 <ul style="list-style-type: none"> ①医療現場において患者の心と体を癒すことのできる医療人としての人格を持った人材 ②医療を行うに当たり必要な知識・技術と臨床力を身に付けた人材 ③臨床現場を見据えた実践的な教育により、医療を通じて社会に貢献できる人材 ●教員養成科 <ul style="list-style-type: none"> ①社会のニーズに対応できる高い実践的臨床能力を持った人材 ②鍼灸マッサージ養成施設の教員として相応しい、臨床力と指導力を有した人材 	学校案内 ホームページ 自己点検・自己評価の報告書	(4) 3 2 1
1-2 学校における職業教育の特色は何か	<ul style="list-style-type: none"> ●あはき科・柔道整復科 <ul style="list-style-type: none"> ①社会の実情に即した技能の修得と伝統に培われた技術の伝承 ②臨床の幅を広げるための規定の時間枠外での技能の修得 ③学年毎の専門的知識・技術の修得レベルにリンクした臨床実習による臨床力の養成 ④基礎学力と専門性を修得できる体系的かつ効率を重視したカリキュラム構成 ⑤クラス担任制による学生一人ひとりに対する生活、学習指導 ⑥インターンシップ導入やキャリアガイダンス実施による職業意識の醸成 ⑦卒業生を対象にした卒後臨床研修講座の実施による臨床研鑽の場を提供 ⑧施術所所長等、治療現場で活躍している講師からの基礎及び応用技術の修得(企業連携) ●教員養成科 <ul style="list-style-type: none"> ①現場で活躍し専門性を有する講師陣による質の高い教育 ②鍼灸医療の多様性に十分応えることができるカリキュラムの構成 ③臨床力向上のため理論、実技、臨床実習を一体化させた教育システムを構築 ④臨床家としての即戦力と医療人としての資質の醸成 ⑤教育者としての指導力と人間力を養成 	カリキュラム・時間割表・学校案内 シラバス・教育計画表(授業概要) 臨床実習マニュアル 卒前臨床教育実施資料(あはき、柔整) クラス担任表 インターンシップ実施資料(あはき、柔整) キャリアガイダンス実施資料(あはき、柔整) 卒後臨床研修講座実施資料	(4) 3 2 1

自己評価報告書(東京医療専門学校)

1. 教育理念・目標

評価項目	現状	根拠・実施内容 (組織体制、規定、実施状況、資料)	適切-4、ほぼ適切-3 やや不適切-2、不適切-1
1-3 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	<ul style="list-style-type: none"> ●あはき科・柔道整復科 <ul style="list-style-type: none"> ①超高齢化社会に対応できる医療人の育成を目指して、あん摩マッサージ指圧・はりきゅう・柔道整復の知識や技術だけでなく、医療系に必要な幅広い知識や技術の修得を計画している ●妊婦や子ども、育児中の家族など未来の日本を支える人材に対し、健康の担保を図るべく、地域、企業と連携をしてセミナーや講演会などを行っている ●教員養成科 <ul style="list-style-type: none"> ①長寿社会を迎える、高まる健康志向に対応できる実践的臨床力を強化している ②学力や人間力が低下してきている、昨今の学生に対応する指導力を兼ね備えた、教員の育成を図る ●呉竹会(校友会)を活用した豊富な卒業生との交流により業界ニーズの情報収集 	新宿区子ども支援センターにてセミナー 毎日新聞主催 毎日学びのフェス参加 東長寺での高齢者向け健康セミナー 呉竹会(講演会、懇親会)	④ 3 2 1
1-4 理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒保護者等に周知されているか	<ul style="list-style-type: none"> ●あはき科・柔道整復科 平成30年度に向けたリニューアル(スマホにより情報端末により容易に閲覧可能) ●教員養成科 ホームページ等に掲載する他、学会や業界団体の会報に積極的に掲載した 	学校案内 (2019版作成。理念、教育目標を掲載) ホームページ (自己点検・自己評価の報告書総括)	4 ③ 2 1
1-5 各学科の教育目標・育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	<ul style="list-style-type: none"> ●あはき科・柔道整復科●教員養成科 確かな専門職としての技能と医療人としての人間性を得るよう方向づけしている 	卒前教育の時間割	4 ③ 2 1

(1)課題

- あはき科・柔道整復科
 - ①学生の多様化と若年齢化とともに、以前に比べて学力や人間力の低下が見られ、専門職としての知識、技術の修得が困難な学生が増えている
 - ②本校の教育の理念・目標などが学生、保護者等への周知が不十分である
 - ③新カリキュラムに対応する教育内容(臨床実習の充実)

(2)今後の改善方策

- あはき科・柔道整復科
 - ①TCIコーチング導入や教育センターの指導を通じて、学力向上に向けての初年次教育の充実と効率的な補習授業並びに生活指導を含めた個別指導の充実を図っていく
 - ②本校の教育理念・目標を学生、保護者等に周知できる方法を検討していく
 - ③新カリキュラムに合わせて、附属施設に加えて、臨地実習を導入する。画像診断装置の読みの授業を導入する。

(3)特記事項

- あはき科・柔道整復科
1年次から卒業生や業者のキャリアガイダンスを行うことにより、卒業後を見据えたキャリアプランへの意識形成を促している(あはき、柔整)

自己評価報告書(東京医療専門学校)

2. 学校運営

評価項目	現状	根拠 (組織体制、規定、実施状況、資料)	適切-4、ほぼ適切-3 やや不適切-2、不適切-1
2-1 理念、教育目標に沿った運営方針が策定されているか	①理念および教育目標に沿った平成29年度呉竹学園の運営方針(理事長、法人事務局)について、校長会にて審議し、理事会において決定した。 ②呉竹学園の運営方針に沿って、平成29年度の教育目標および運営方針を決定した	理事会資料 校長会・事務長会議事録	④ 3 2 1
2-2 理念、教育目標、運営方針に沿った事業計画が策定されているか	①教育目標を達成するための新カリキュラム(アウトカム基盤型教育、臨床力向上教育)、学生募集戦略等について検討を重ね、平成29年度の事業計画および年間計画を策定し、校長会において審議した ②理事会において、呉竹学園の運営方針と合わせ、平成29年度事業計画が承認された	校長会議議事録 科長会議議事録 教務会議議事録	④ 3 2 1
2-3 運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	①呉竹学園の運営については呉竹学園寄付行為によって規定されている ②各校では、校長が決裁するもの、理事長が決裁するものが細則で定められている ③呉竹学園として各学校が共有すべき案件については理事長同席の下に校長会議で決定する	校長会	④ 3 2 1
2-4 人事、給与に関する制度は整備されているか	①呉竹学園法人事務局において人事、給与を統括し、制度を整備している ②法人事務局が中心となり、人材を活性化するための新たな人事評価制度案を策定し、事務長会、校長会において内容を検討・審議した結果、今後、新制度を導入する事となった。	就業規則	4 ③ 2 1
2-5 教務財務等の組織整備など意志決定システムは整備されているか	①理事会における呉竹学園の運営に関する意志決定 ②校長会における呉竹学園の運営計画に沿った各学校運営に関する意志決定 ③科長会議における学校ごとの具体的な計画、実行のための意志決定 ④担当者レベルの会議における、具体的な実施項目の検討および計画の提案	組織図、議事録	④ 3 2 1
2-6 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	①1年生、3年生に対して、業界団体から担当者を招聘して業界の説明会を開催している ②教職員および学生が業団体に加入し、業界主催の行事に参加している ③業界主催の研修会を教職員および学生に紹介し、任意ではあるが参加させている ④学生に対して、業界、異業種業界などによる職業教育セミナーを開催している ⑤地域社会に対して、本校の教育、運営を理解してもらうイベントに参加または計画している	教務記録 全日本鍼灸学会(東京大会)への参加記録 モチベーションアップセミナー資料 業団説明会資料 地域イベントへの参加資料	4 ③ 2 1
2-7 教育活動に関する情報公開が適切になされているか	①ホームページで教育活動に関する情報公開(自己評価、財務諸表、教育実績)を行っている ②教育活動の具体的な取組みをホームページ、SNS等をとおして情報提供している ③卒業生向け会報誌を年2回発行し、学校運営情報、卒後研修のお知らせ等をしている	ホームページ SNS(フェイスブック、ツイッター等) 呉竹だより(校友会会報誌)	④ 3 2 1
2-8 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	①学内ネット(VPN)により教職員間の業務情報の共有を円滑にし、業務効率を向上している。 ②2019年1月のWindows7サポート終了を受け、Win10への機器更新に着手した。 ③ウィルス対策ソフトに加え、より厳重なセキュリティー機器を各校舎のサーバーに設置した。	ファイル管理の一元化、作業ファイルの共有 アプリケーションソフトの統一等	④ 3 2 1

(1)課題

- ①教育目的に沿った運営が効率よく行われるよう一層の教員の教育力と技術力の強化を図らなければならない
- ②リスク管理の観点から保管文書全般についてデータ管理化の推進、およびウィルス対策の強化が必要である
- ③教育目的、事業計画に沿った運営の実行性が教職員に十分行き渡っていない

(2)今後の改善方策

- ①教員の教育力・技術力の強化と、知識・技術の増進を計画的に進めていく
- ②呉竹学園教育センター主導で教職員の業務能力教育力を高めていくとともに、3校の教職員が教育に関する情報を共有出来るようにしていく

(3)特記事項

情報管理に関して、ウィルス対策および個人情報保護対策を強化していく必要性が益々高まっている

自己評価報告書(東京医療専門学校)

3. 教育活動

評価項目	現状	根拠 (組織体制、規定、実施状況、資料)	適切-4、ほぼ適切-3 やや不適切-2、不適切-1
3-1 教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	教育理念に沿い、教育目的・育成人材像を掲げ、これを達成するため、各学年においての目標に分けて教育課程の編成・実施方針が策定されている	年間行事一覧 学習のめやす(カリキュラムに記載)	④ 3 2 1
3-2 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	<p>●あはき科・柔道整復科 教育目的に合う人材を養成するために、各学年における到達レベルを設定し、それに合う学習時間が設定されている(厚労省認定規則に則り編成)。 あはき学校養成施設認定規則、および柔道整復師学校養成施設指定規則の一部が改正(平成29年4月1日施行)されたことに伴い、授業時間数、臨床実習時間数を増加させた、新しい教育計画を策定し、学則変更を行った。(既認定校は平成30年度入学性より適用)</p> <p>●教員養成科 教育目的に合う人材を養成するために、各科目における到達レベルを設定し、それに合う学習時間が設定されている(厚労省指定基準に則り編成)。あはき教員養成機関指定基準の一部改正(平成30年4月1日より施行)に伴い、新しい教育計画を策定し、学則変更を行った。</p>	厚生労働省認定規則、および指定規則 シラバス 教育計画表	④ 3 2 1
3-3 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	<p>●あはき科・柔道整復科 各学年の目標に合わせて、体系的にカリキュラムを編成している 1年次は、基礎的な科目を中心に編成 2年次は、基礎的な知識をもとに疾病などの臨床的な科目で編成 3年次は、臨床的な科目に重点を置き、臨床現場で役立つ力を養うような科目で編成</p> <p>●教員養成科(平成29年度時点) 1年次は、基礎科目のほか教職教育科目は、教育心理、教育学概論を中心に、専門基礎科目は、人体形態学論、人体機能学論を中心に、専門科目は、はりきゅう臨床学・応用学、あまし臨床学・応用学を中心に編成している 2年次は、関連科目、卒業論文のほか教職教育科目は、教育方法、教育実習を中心に、専門基礎科目は、社会医学特論、臨床医学論を中心に、専門科目は東洋医学特論、臨床実習を中心に編成している ※平成30年度から、1年次を臨床専攻課程(前期課程)、2年次を教員養成課程(後期課程)</p>	学則および別表 学習のめやす シラバス	④ 3 2 1
3-4 キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	<p>●あはき科・柔道整復科 ①卒業生や業界関係者を招聘したキャリアガイダンスを実施した ②インターンシップ制を導入し、臨床現場を実体験させている(あはき) ③陸上競技大会など、スポーツ現場での医療スタッフ活動を実体験させている(柔道整復) ④臨床の幅を広げるとともに、スキルアップするための臨床講座、およびゼミを実施した ⑤同業異業の職業教育に関する講師を招き講演会を行った(モチベーションアップセミナー) ⑥卒後臨床研修講座の実施 ●教員養成科 ①附属施術所における臨床実習をとおして患者施術を実施 ②学外の臨床研修施設において、実習(アドバンスコース)を実施 </p>	シラバス キャリアガイダンス特別授業等の実施要項 インターンシップ実施資料 陸上競技大会医務室見学実習資料 モチベーションアップセミナー資料 ゼミ資料 卒後臨床講座実施資料	④ 3 2 1

自己評価報告書(東京医療専門学校)

3. 教育活動

評価項目	現状	根拠 (組織体制、規定、実施状況、資料)	適切-4、ほぼ適切-3 やや不適切-2、不適切-1
3-5 関連分野における実践的な職業教育(医療機関との連携によるインターンシップ、実技、実習等)が体系的に位置づけられているか	<ul style="list-style-type: none"> ●あはき科・柔道整復科 <ul style="list-style-type: none"> ①主として本校卒業生が開業している治療院にてインターンシップを実施している(あはき) ②陸上競技大会医務室見学実習によりスポーツ現場での活動を実体験させている(柔道整復) ③卒業学年には、毎年業界人による特別授業を行っている ④月に一度、同業異業の職業教育に関する講師を招き講演会を行っている(あはき) ●教員養成科 学外の臨床施設における実習(アドバンスコース)が用意されている 	インターンシップ実施資料 陸上競技大会医務室見学実習要項 モチベーションアップセミナー資料	④ 3 2 1
3-6 授業評価の実施・評価体制はあるか	<ul style="list-style-type: none"> ●あはき科・柔道整復科 科目ごとに学生による授業評価アンケートを実施し、その結果を校長に報告すると共に、校長の指示のもと、科長と担当教員とで検討し、授業の改善を図っている ●教員養成科 授業が卒業後に役立つかを見極めることに視点を置いたアンケート調査を実施し、その結果を踏まえ、校長および科長と担当教員で話し合いを持っている 	授業評価アンケート結果	④ 3 2 1
3-7 学生の研究に対する支援体制はあるか	<ul style="list-style-type: none"> ●あはき科・柔道整復科 <ul style="list-style-type: none"> ①東洋療法学校協会の学術大会への研究発表を募り、研究費や指導の支援をしている ②吳竹学園主催の吳竹医学会において、2年生を対象に研究発表を募り、研究費や指導の支援をしている ③教員によるゼミナール活動、同好会活動を行っており、活動費等の支援をしている ●教員養成科 <ul style="list-style-type: none"> ①卒業論文提出がカリキュラムに組み込まれており、研究費や指導をとおして支援をしている ②吳竹学園主催の吳竹医学会、ならびに全日本鍼灸学会において研究発表を募り、研究費や指導の支援をしている 	研究経費申請書(吳竹医学会・卒論) 抄録 各教員によるゼミナール資料、同好会資料	④ 3 2 1
3-8 職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	<ul style="list-style-type: none"> ●あはき科・柔道整復科 <ul style="list-style-type: none"> ①外部関係者評価は実施していないが、他校の実務経験豊富な教員(あはき科5年以上、柔道整復科7年以上)による実技評価を毎年受けている ②学校関係者評価委員会と教育課程編成委員会を年に各2回ずつ実施している 		4 ③ 2 1
3-9 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	<ul style="list-style-type: none"> ●あはき科・柔道整復科 教務規定に基準が明記されている ●教員養成科 学内規定ならびにシラバスに基準が明記されている 	教務規定 学内規定 シラバス	④ 3 2 1
3-10 資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	<ul style="list-style-type: none"> ●あはき科・柔道整復科 <ul style="list-style-type: none"> ①国家試験合格に必要な知識を効率よく修得するための時間割を作成している ②必要に応じて補習を実施している ③担任による成績不良者面談と個別指導がある ●教員養成科 あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師に係る学校又は養成施設での教員資格取得のための教育分野の講義、演習、実習を実施している 	シラバス	④ 3 2 1

自己評価報告書(東京医療専門学校)

3. 教育活動

評価項目	現状	根拠 (組織体制、規定、実施状況、資料)	適切-4、ほぼ適切-3 やや不適切-2、不適切-1
3-11 人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	<ul style="list-style-type: none"> ●あはき科・柔道整復科 専修学校設置基準、あはき師および柔道整復師養成施設認定規則等の法令に定められた資格を条件として優秀な教員を採用している ●教員養成科 認定規則に則し、各分野における専門性を有し、かつ資格と臨床歴を兼ね備えた教員を確保している 	認定規則	④ 3 2 1
3-12 関連分野における先端的な知識技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組みが行われているか	<ul style="list-style-type: none"> ●あはき科・柔道整復科 ●教員養成科 ①全日本鍼灸学会、接骨医学会等の参加費用は学校側で負担し参加させている ②吳竹学園主催の吳竹医学会を開催し、発表と講演を通して教員の資質の向上を図っている ③学校協会主催の教員研修会の参加費用は学校側で負担し参加させている ④吳竹会(校友会)の講演会に教員全員が参加し、知識・技術の向上を図っている ⑤附属施術所において、教員の臨床力アップを図っている 	教育センターによる講座案内 学内研修会実施要項 業団開催の学会開催要領	④ 3 2 1
3-13 職員の能力開発のための研修等が行われているか	<ul style="list-style-type: none"> ●あはき科・柔道整復科 ●教員養成科 ①毎年、全員を対象とした学内研修を行い、教員としての意識付けを行っている ②TCIコーチングの講習を、順次、教員に受けさせ、退学者対策に生かしている ②FD委員会を学園内に設置しており、各校の学科責任者、または補佐クラスがFD委員として出席し、能力開発のための検討、および活動を行っている 	学内研修会実施資料 TCIコーチング資料 FD委員会資料	④ 3 2 1

(1)課題

- ①優れた教授力、指導力を持った教員ならびに十分な臨床能力を持った教員の養成が必要である
- ②実践的な職業教育が不十分である
- ③医療系専門職としての臨床力養成が十分とはいえない

(2)今後の改善方策

- ①FD活動を通じて、教員の教育力、指導力の向上を図っていく
- ②社会や業界ニーズを踏まえた臨床講座を増やし、実践性のある職業教育を目指す
- ③附属施術所の患者数を十分確保し、臨床実習・臨床研修の一層の充実を図って行く
- ④カリキュラム枠外で、臨床の幅を広げる講座を増やすことにより実践性のある職業教育を目指す
- ⑤キャリアガイダンス、インターンシップの一層の充実を図る

(3)特記事項

仕事に従事する学生が多く、課外授業への参加が難しいのが現状である

自己評価報告書(東京医療専門学校)

4. 学修成果

評価項目	現状	根拠 (組織体制、規定、実施状況、資料)	適切-4、ほぼ適切-3 やや不適切-2、不適切-1
4-1 就職率の向上が図られているか	<p>●あはき科・柔道整復科 臨床教育を充実させて臨床力の向上を図り、学生が卒後に自信を持てるようにする 計画的なキャリアガイダンスおよびインターンシップの実施 就職説明会を12月と3月の2回実施。参加企業延べ100社、学生約130名以上が参加した。 3年次の中間地点および卒業時に進路アンケート調査を行い、進路決定の状況を把握した ●教員養成科 6月に、全国のはり師きゅう師あん摩マッサージ指圧師養成校に教員採用の求人依頼を送付、 求人情報を掲示した。教員養成科の少ない地方の専門学校に出向き、PRした。</p>	<p>キャリアガイダンス年間計画 インターンシップ年間計画 シラバス(臨床実技・臨床実習) 就職説明会実施掲示 アンケート調査結果 求人情報掲示</p>	4 ③ 2 1
4-2 資格取得率の向上が図られているか	<p>●あはき科・柔道整復科 ①成績不良者に対する補習授業(無料)を徹底して行い成績の底上げを図った ②3年生に対しては通常授業に加え、時間外補習を行い、国試合格力を強化した ③国家試験受験用の出版物(ダイジェストスタディー)を発行している ④吳竹塾のノウハウを在校生の国試対策に活用した(基本問題の回答能力向上) ●教員養成科 ①出席状況、成績状況について、担任が状況を把握し、個別面談により改善を図っている ②時間外での技術修得の場を与えている</p>	<p>授業時間外の補講・補習計画 シラバス 出版物</p>	④ 3 2 1
4-3 退学率の低減が図られているか	<p>●あはき科・柔道整復科 ①学力低下傾向があり、成績不良者の把握と補習により、1年次から退学者対策をした ②担任制により、きめ細かく個別相談、面談を実施し、早期に学生本人の課題を把握した ③教育にTCIコーチングシステムを導入して個別指導を充実させた ④H29年度から新設した学生支援室を中心に、学生の経済的支援、相談を実施した</p>	<p>補習授業実績 面談シート、個別相談の資料 コーチングシステムの資料 2名体制の学生支援室(本館3階)</p>	4 ③ 2 1
4-4 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	<p>●あはき科・柔道整復科 ①関連学会・業界の学術大会あるいは校友会・学園主催の講演会や学術大会に参加している 卒業生については活動状況を把握している 在校生に関してはクラス担任制を取っているので活動状況を把握している ②校友会が発行している会報誌により卒業生の活躍を把握している ●教員養成科 はり師きゅう師あん摩マッサージ指圧師養成校の専任教員および講師として活躍していること、並びに臨床家として開業や勤務の形態で業界に関わっていることを把握している</p>	<p>校友会会報誌「くれたけだより」</p>	4 ③ 2 1
4-5 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	<p>●あはき科・柔道整復科 各科の学校協会が実施する免許取得者の進路状況アンケート調査に参画している ●教員養成科 卒業後のキャリア形成への効果は大方把握しており、教育計画の参考にしている</p>	<p>①あん摩マッサージ指圧師、はり師及びきゅう師免許取得者の進路状況アンケート調査 ②柔道整復師養成施設卒業生進路状況アンケート調査</p>	4 ③ 2 1

4. 学修成果

(1)課題

- ①学習意欲、職業意識が低い
- ②補習授業への参加者が少ない
- ③留年者退学者が目に付く
- ④卒業生の動向並びに就業形態の把握について、完全ではない。

(2)今後の改善方策

- ①初年次教育の一層の充実を図ると共に個別対応を入念に行う
- ②成績不良者に対しては補習への参加意識を高める努力をする
- ③留年者を出さないための対策を学園としてプロジェクトチームを立ち上げ取り組んで行く
併せて、本校では成績と出席状況等を見ながらクラス担任が、適切な個別指導をしていく
- ④校友会会報誌送付等を介して卒業生の動向を把握する

(3)特記事項

特になし

自己評価報告書(東京医療専門学校)

5. 学生支援

評価項目	現状	根拠 (組織体制、規定、実施状況、資料)	適切-4、ほぼ適切-3 やや不適切-2、不適切-1
5-1 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	<p>●あはき科・柔道整復科 ①求人検索システムにより本校への求人情報をインターネットで常時閲覧可能とした ②就職説明会を実施するとともに、求人冊子を配布して学生の就職活動を支援した ④キャリア教育(業界の実状・職域の紹介・就活の仕方等)を実施した ⑤科長・担任が窓口になり、進学や、就職などの進路相談をしやすい環境を作っている ⑥求人情報の受付、登録を円滑に行い、学生に約900件の求人情報を発信した</p> <p>●教員養成科 ①求人情報を掲示・閲覧できるようにしている ②科長・担任が相談窓口になっている</p>	ホームページ 求人用紙 就職ハンドブック 東京医療専門学校教員養成科の募集案内 筑波大学理療科教員養成施設の募集案内	4 ③ 2 1
5-2 学生相談に関する体制は整備されているか	<p>●あはき科・柔道整復科 クラス担任制をとり、個別に学生の学業・生活・就職等の相談を受けている コーチングシステムを導入し、担任が把握をしている H29年度に新設した学生支援室で、奨学金や給付金の相談、受付を専門的に行った</p> <p>●教員養成科 科長が学校心理士の資格を有し、担任と協議しながら対応に当たっている</p>	学生相談室の設置 担任による面談ノート コーチングシステム資料 学生支援室	④ 3 2 1
5-3 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	<p>●あはき科・柔道整復科・教員養成科 ①学費納入に関する相談を随時事務局にて受けている ②授業料の分納を所定の範囲で許可している ③日本学生支援機構奨学金および東京都奨学金による奨学金制度 ④金融機関との吳竹学園提携ローン(ジャックス)制度 ⑤社会人に対する専門実践教育訓練給付金制度(学科により認可されている) ⑥経済的理由による学費支援制度(学園独自+自治体給付) ⑦医療資格を保有している入学者に対する、学費の一部免除制度 ⑧2科同時入学者および学内進学者に対する、入学金および学費の一部免除制度 ⑨卒業生が他科に入学する場合の、入学金および学費の一部免除制度 ⑩校友会推薦または院長推薦による入学者に対する、入学金の一部免除制度 ⑪学外からの入学者に対して、養成施設の施設長の推薦により、入学金の一部を免除する推薦制度導入(教員養成科のみ)</p>	学費分納願 日本学生支援機構 東京都奨学金募集要項 学生募集要項 専門実践教育訓練給付制度資料	④ 3 2 1
5-4 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	<p>●あはき科・柔道整復科 ①すべての学生を対象とした健康診断を年1回行っている ②入学時には全員に胸部X線撮影を行っている ③学校附属施設所の利用(特別施術料にて利用が可能)</p> <p>●教員養成科 健康診断、結核検診以外に希望者に対してB型肝炎ワクチンの接種を実施している</p>	健康診断受診票 胸部X線撮影診断結果 B型肝炎ワクチン接種実施簿	④ 3 2 1

自己評価報告書(東京医療専門学校)

5. 学生支援

評価項目	現状	根拠 (組織体制、規定、実施状況、資料)	適切-4、ほぼ適切-3 やや不適切-2、不適切-1
5-5 課外活動に対する支援体制は整備されているか	●あはき科・柔道整復科●教員養成科 課外活動に対して学校施設を開放している、また、必要に応じて教員が活動をサポートしている教員によるゼミナールを開催している	部活・同好会・ゼミナール募集要項	④ 3 2 1
5-6 学生の生活環境への支援は行われているか	学生寮運営会社と提携し、遠隔地の学生に便利で安全な生活環境を提供している	共立メンテナンス(株)との指定学生寮契約	④ 3 2 1
5-7 保護者と適切に連携しているか	①成績、出席に関することについては、保証人(保護者)に通知、状況によっては保証人(保護者)と面談を行う ②体調不良などの健康面についても、場合によっては保証人(保護者)とも連絡を取り対応している ③場合によっては、3者面談を行うこともある	成績・出席不良者の保証人(保護者)への通知書類 保護者との面談記録	④ 3 2 1
5-8 卒業生への支援体制はあるか	①国家資格を取得した者を対象として、附属施術所において臨床研修生として受け入れている ②テーマ別の卒後臨床研修講座を年に数回開講し、臨床力向上を積極的に支援している ③求人票や求人システムの閲覧、求人依頼、図書室の利用、呉竹医学会に参加可能である	研修願／卒後臨床研修講座募集要項 呉竹会会員書/呉竹会規約 くれたけだより(校友会会報誌) ホームページ(求人サイト) 求人情報学内掲示 閲覧用求人票/求人依頼票	④ 3 2 1
5-9 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	①夜間コースを設置している(鍼灸科夜間特修コース、柔道整復科夜間特修コース) ②専門書を中心とする図書室視聴覚室が整備されている ③学生ホールには飲料水の自動販売機を設置し、自由に接続できる Wi-Fi 環境を整備している ④学内は原則禁煙であるが、換気機能のある喫煙コーナーを設置し、分煙している	インターネット設備 視聴覚コーナー 施設整備・環境保全	4 ③ 2 1
5-10 高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組みが行われているか	①高校校内ガイダンスにて模擬実技の実施依頼があった場合に実施 ②高校で実施される進路ガイダンスへは特に力を入れ、模擬実技を含め、資格、仕事、業界の内容、卒後の展望について説明している ③高校による学校訪問を受け入れ、本校の職業教育の概要を説明している	高校校内ガイダンス出席依頼書 高校校外ガイダンス依頼書	4 ③ 2 1
5-11 国家試験不合格者に対する支援体制はあるか	国家試験不合格者には Kuretake 塾にて学力向上のための教育支援を行っている	Kuretake 塾募集要項	④ 3 2 1

(1)課題

- ①学校の教育方針、内容に関することが保護者に十分理解されていない
- ②高校との連携による本校の職業教育の取組が不十分である
- ③学生のメンタル面でのケアが十分とはいえない
- ④サークル活動への対応が満足とはいえない

(2)今後の改善方策

- ①保護者に学校の教育方針、教育内容についての理解が十分得られるような案内を送付することを検討する
- ②高校との連携を図ることにより、医療系の中でも職業特性が強い本校の専門職の理解を深めて頂くよう努めていく
- ③心の問題に対応できるカウンセリングについて検討していく
- ④サークル活動を希望する学生に対応できるような教員のスキルの向上を高めていく
- ⑤学生支援室を開設する

(3)特記事項

特になし

自己評価報告書(東京医療専門学校)

6. 教育環境

評価項目	現状	根拠 (組織体制、規定、実施状況、資料)	適切-4、ほぼ適切-3 やや不適切-2、不適切-1
6-1 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか	①厚生労働大臣認定の養成施設として、法令で定められた教育施設、設備を備えている ②建築物衛生法(建築物における衛生的環境の確保に関する法律)に従い、特定建築物年間管理計画書に沿って建屋環境を管理している ③貸出可能な図書室を備えるとともに、四谷校舎の4号館1Fと本館横(喫煙コーナー)、代々木校舎の2Fと地下(喫煙コーナー)には学生ホールを設置し、学生の憩いの場を提供している	養成施設設置基準 特定建築物年間管理計画書 建屋の年間整備計画書 環境測定の結果	④ 3 2 1
6-2 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	●あはき科・柔道整復科 (学外) ①日本大学医学部にてあはき科3年次(希望者)に人体解剖見学実習を実施している ②東京医科大学にて柔整科3年次(希望者)に人体解剖見学実習を実施している ③治療院と提携してインターンシップを実施している(あはき) ④陸上競技大会見学実習を実施している(柔道整復) ⑤上海中医药大学との交流をはかり、短期留学(希望者)を実施している (学内) ⑥附属施術所で臨床実習を実施している ●教員養成科 (学外) ①東京歯科大学および千葉大学医学部にて1年次に人体解剖見学実習を実施している ②上記と同じく上海中医药大学との交流をはかり、短期留学を実施している (学内) ①附属施術所で臨床実習を実施している ②上記の人体解剖見学実習、短期留学の他に自校他校を含め教育実習を実施している	人体解剖見学実習実施計画 中国短期留学実施計画 インターンシップ実施計画 陸上競技大会見学実習実施要項 臨床実習計画書	④ 3 2 1
6-3 防災に対する体制は整備されているか	①消防計画を策定し、消防点検、消防訓練(地震発生時訓練)を行って、防災対策をしている ②防災を含む、危機管理マニュアルを作成し、リスク発生の事態に備えている ③大災害発生時に備え、帰宅困難時を想定した飲料水、食料等の備蓄を行っている	危機管理マニュアル (災害時における教職員マニュアル) (防災訓練実施要項)	4 ③ 2 1

(1)課題

大震災を想定した環境整備や備蓄等を充実させる必要がある
 附属施術所での臨床実習の患者数が十分とはいえない

(2)今後の改善方策

大震災の対応マニュアル作成を検討する
 附属施術所の新患を増やすための対策を施術所に所属する教員が中心となり検討する

(3)特記事項

特になし

自己評価報告書(東京医療専門学校)

7. 学生の受入募集

評価項目	現状	根拠 (組織体制、規定、実施状況、資料)	適切-4、ほぼ適切-3 やや不適切-2、不適切-1
7-1 学生募集活動は、適正に行われているか	①学生募集活動に関しては、専修学校各種学校協会の倫理規定に従い、適正に学生募集を行っている ②H28年度に学生募集支援システム(Info Cloud)を導入し、受験生との1stコンタクトから、入試、入学まで一貫してフォロー出来るようにしている	専修学校各種学校協会の広告倫理運用委員会規則 Info Cloud 使用説明書	④ 3 2 1
7-2 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	①ホームページ並びに学校案内では学校の教育理念、教育内容、教育成果を説明している ②教育成果は国家試験合格に留まらず、卒後の就職までと考えて広く伝えている ③就職率に関しては、卒業時にアンケート調査を行い、卒業後1か月目に電話による追跡調査を行って就職率を調べ、その状況を伝えている	ホームページ情報公開 SNS(Face Book、Twitter) 学校案内 くれたけだより(校友会会報誌) 学校説明会 個別見学	④ 3 2 1
7-3 学納金は妥当なものとなっているか	学納金については、提供する教育内容に照らし、妥当な水準と考えている	他の養成施設の情報収集	④ 3 2 1

(1)課題

教育成果として、正確な就職状況を伝え切れていない

(2)今後の改善方策

卒業時のアンケート調査に加えて、卒業後1か月後、または数か月後の追跡調査を実施する
あはき師、柔道整復師は、資格保持と同時に開業治療ができることや、中途採用が多いという業界特有の事情に応じた就職状況を、学校案内やホームページ等により伝えていく

(3)特記事項

特になし

自己評価報告書(東京医療専門学校)

8. 財務

評価項目	現状	根拠 (組織体制、規定、実施状況、資料)	適切-4、ほぼ適切-3 やや不適切-2、不適切-1
8-1 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	①学内の設備資金等については、学園内留保金をもって充当しており、外部借入金等はない ②安定的な定員充足が見込まれる課程があり学校運営に必要な学生数は確保している一方、学科によっては定員を下回っている ③施設老朽化のため、修理および更新のための経費支出が大きくなっている	経理計画	4 ③ 2 1
8-2 予算収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	①収入については概ね確定収入であるが、入学者の減少が無視できない程になっている ②支出の多くは固定的支出であり、事業計画と合わせ予算策定時に織り込むことができている	予算書・決算書	④ 3 2 1
8-3 財務について会計監査が適正に行われているか	①監事による財務監査を行うと共に、財務状況決算帳票について、公認会計士による決算検討会を実施している	会計監査報告	④ 3 2 1
8-4 財務情報公開の体制整備はできているか	①情報開示申出により、以下の内容を公開している。 ②事業報告／資金収支計算書／消費収支計算書／貸借対照表／財産目録 資金収支予算書／消費収支予算書 ③学校法人会計による形式により作成している	ホームページ	④ 3 2 1

(1)課題

- ①収入のほとんどは学生の納付金によるため、学生の定員充足率の増減によって一変してしまうという課題を持つ
- ②学生定員を大きく下回る学科が出てきており、募集対策の強化が必要である
- ③退学率が上昇傾向にあり、これも学校運営の課題の1つである

(2)今後の改善方策

- ①学校説明会を含め広報力の強化を図っていく
- ②退学率の原因を詳細に調査し、軽減化を図っていく

(3)特記事項

特になし

自己評価報告書(東京医療専門学校)

9. 法令の遵守

評価項目	現状	根拠 (組織体制、規定、実施状況、資料)	適切-4、ほぼ適切-3 やや不適切-2、不適切-1
9-1 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	①厚生労働省、文部科学省(新宿区経由)には毎年実施報告書を提出している ②学則に変更が生じた場合には遅滞なく関係省庁に届出を行っている ③関係法令・諸規則を周知する環境を整え、必要がある場合には会議や研修会等において周知徹底を図る	養成施設認定規則 文部科学省通達文書	④ 3 2 1
9-2 個人情報に關し、その保護のための対策がとられているか	①平成17年に個人情報保護方針を策定し、すべての個人情報の取り扱いを厳格に定め運用している ②個人情報保護管理者を選任し、内部規定の整備、安全対策の実施、教育訓練等を行う	個人情報管理規定	④ 3 2 1
9-3 自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	平成19年の法改正により義務化されたことから、以後毎年実施している 学校関係者評価委員会を年2回実施し、委員の意見を学校運営の改善に反映している	自己点検・自己評価報告書	④ 3 2 1
9-4 自己評価結果を公開しているか	平成21年度からホームページ上で公表している	自己点検・自己評価報告書	④ 3 2 1

(1)課題

自己評価に沿った実行が十分とはいえない

(2)今後の改善方策

自己評価内容を教職員に周知させ実行性あるものに努める

(3)特記事項

特になし

自己評価報告書(東京医療専門学校)

10. 社会貢献地域貢献

評価項目	現状	根拠 (組織体制、規定、実施状況、資料)	適切-4、ほぼ適切-3 やや不適切-2、不適切-1
10-1 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	①呉竹祭(学園祭)では近隣住民が受療できるチャリティーマッサージ、鍼灸を実施、集まった募金を、公益財団法人日本財団(難病支援)に寄付した ②医師を含めた医療関係者並びに教員等の研修の場に本校を提供した	呉竹祭(学園祭)実施要項 リンパ浮腫講習会 救急救命講習会(JTAS)	④ 3 2 1
10-2 生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	地域スポーツイベントの医療ボランティアについて紹介し、教員・研修生および学生が参加した	東京マラソンボランティア参加 東京ヤマソンボランティア参加 新宿シティーマラソンボランティア参加 軽井沢ハーフマラソンボランティア参加	④ 3 2 1
10-3 地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等)の受託等を積極的に実施しているか	①新宿区・渋谷区の子ども支援センター内で、母と子の育児セミナーを実施(あはき) ②新宿区東長寺のイベントとして、高齢者向けの健康講習会を実施した(あはき、柔整) ③毎日新聞主催「毎日子どもフェス」にて小学校教育の一つとして東洋医学セミナーを8月と3月に行った(あはき) ④女子力アップセミナーを学校内で年3回行った(あはき) ⑤東京都聴覚障害者社会教養講座(健康であり続けるために、身体について学ぶ)	新宿区子ども支援センターにてセミナー 東長寺での健康に関する講習会 毎日新聞主催 毎日学びのフェス参画 女子力アップセミナー開催 東京都教育委員会依頼書	④ 3 2 1

(1)課題

- ①学校に関係したボランティア活動は把握しているが、学生が個人でやっている活動に関しては把握していない
- ②一般住民向けの告知が難しい。町内の看板等に告知したとしても当日の参加者の把握が困難である
- ③ホームページによる予約制の一般参加者募集ができるとよい(システム構築が必要のためコストがかかる)

(2)今後の改善方策

- ①ボランティア活動は学業に支障がないことを条件に支援、指導していく
- ②学校や校友会主催の講演会でも地域の人が参加できるようにしていく
- ③行政や公共施設に関与してもらう事により一般住民向けの告知をスムーズにする

(3)特記事項

学園祭のチャリティーの収益については、毎年、公共性の高い慈善団体を調べ、寄付していく